

民主化闘争情報

No. 864
2012年8月30日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

7月に今年度の新規採用者1名の加入を勝ちとった貨物鉄産労が、今度は国労からの組織拡大を果たした。貨物鉄産労は、漂流する国労から良心的組合員をさらに拡大するべく、全国に檄を飛ばしている！

貨物鉄産労が国労から組織拡大！

今回、貨物鉄産労に加入したのは東海支社の静岡総合鉄道部に勤務する53歳のベテラン運転士だ。静岡総合鉄道部では、先月の新規採用者1名の加入に続く成果となった。

国労は、7月に定期大会を開催したが、代議員から賛否両論が出された連合加盟問題について、本部は「様々な意見があるのは承知している。今後は、慎重かつ丁寧に議論を深めていきたい」などと曖昧な答弁に終始するとともに、本部書記長のインタビュー記事や貨物会社への謝罪問題などについて代議員から厳しい批判の声が出されている。

貨物鉄産労は、「今の国労は、1047名問題が解決して『行き場を失っている』のが実態だ。良識ある国労組合員に、『貨物鉄産労に加入して、会社の経営安定と貨物民主化の実現に向けて共に闘う』ことを訴えよう！」と全国に檄を飛ばしている。

JR連合国会議員懇談会がJR貨物の瓦礫輸送現場を視察！

JR連合国会議員懇談会は、JR連合および貨物鉄産労、南関東ロジ労組の役員と共に、8月27日、JR貨物の瓦礫輸送の状況について、東京都中央清掃工場及び東京貨物ターミナル駅の視察を行った。

JR連合国会議員懇談会は、東日本大震災からの早期復興の妨げになっている被災地の瓦礫を速やかに処理することが重要であり、広域瓦礫処理の輸送手段であるJR貨物の取り組みを支援することを確認しており、今回の視察はその一環として行われた。議員懇談会から榛葉賀津也副会長、伴野豊副会長、岩本司農水副大臣、尾立源幸参議院議員が参加し、JR貨物の小林取締役会長、田村代表取締役社長が案内した。

まず一行は、東京都中央清掃工場において、瓦礫を満載した専用コンテナ車からの廃棄作業や当該専用コンテナ車の洗車作業などを見学した。続いて東京ターミナル駅に移動し、瓦礫専用コンテナの取卸し作業などに関する視察を行った。

その後のJR貨物との意見交換で、田村社長は、「東日本大震災からの早期の復興に際して、瓦礫処理は重要な取り組みであると認識している。人道的観点からもJR貨物としては広域瓦礫輸送に積極的に取り組んでいく所存である」と挨拶した。また、参加した各議員からは、「復興に貢献する瓦礫輸送が進んでいない状況である。我々国会議員懇談会としても、政府・自治体に要請していく所存である。鉄道貨物の一層の取り組みに期待したい」「JR貨物の環境優位性をさらにアピールする取り組みに期待したい」「鉄道貨物の瓦礫輸送が全国広範囲に展開できる戦略を支援していく」などの意見が出された。

JR連合は、JR貨物の経営安定化そして鉄道貨物へのモダリティシフトにむけて中長期的な視点に立った政策課題の解決を図るため、プロジェクト会議を発足させ、議員懇談会と連携を取りながら精力的に取り組んでいくことにしている。併せて、広域瓦礫輸送に際してJR貨物を積極的に活用するよう関係方面に対する働きかけをさらに強化していく方針である。

JR貨物に働くすべての労働者は、JR連合・貨物鉄産労に総結集しよう！